

派遣留学生帰国報告書

| | |
|-----------------|-----------|
| 記入日 | 2022/8/29 |
| 所属学部・ 研究科・学府 | 融合理工学府 |
| 所属学科・専攻 | 創成工学専攻 |

1. 留学先について

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|-------------------------------------|--------|-------------------------------------|-----------|-------------------------------------|-----|-------------------------------------|--|-------------------------------------|------|
| 留学先大学名 | Politecnico di Milano, TH Köln | | | | | | | | | | |
| 留学先所属学部等 | DESIGN & ENGINEERING, Integrated Design | | | | | | | | | | |
| 留学期間 | 出発日 | 2021/9/19 | 入学日 | 2021/9/13 | 修了日 | 2022/7/15 | 帰国日 | 2022/7/28 | | | |
| 住居 | 大学(紹介)の寮・アパート | <input checked="" type="checkbox"/> | 民間アパート | <input type="checkbox"/> | その他() | | | | | | |
| | 通学時間 | 30分 | | | On campus | | | | | | |
| | 通学方法 | 電車、メトロ | | | | | | | | | |
| | 居室スペース | <input checked="" type="checkbox"/> | 個室 | () | 人部屋 | その他() | | | | | |
| | 共有スペース | <input type="checkbox"/> | 完全個室 | <input checked="" type="checkbox"/> | キッチン | <input checked="" type="checkbox"/> | トイレ | <input checked="" type="checkbox"/> | バス | <input checked="" type="checkbox"/> | リビング |
| 食事 | 自炊 | 60 | % | 学食 | 5 | % | 外食 | 35 | % | その他 | () |
| 保険 | 海外旅行保険(名称) | | | | | | | | | | |
| | 留学先国・大学指定の保険(名称) | ジェイアイ傷害火災保険 | | | | | | | <input checked="" type="checkbox"/> 加入必須 | | |
| | その他 | | | | | | | | | | |
| 渡航ルート | ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車) | | | | | | | | | | |
| 羽田 ⇄ ローマ(飛行機) ⇄ ミラノ(飛行機) | | | | | | | | | | | |

2. 留学にかかった費用について

| | | | | | | | | | | | |
|------|-------------|---------|-------------------------------------|--------------------|-----------|-----|---|--|--|--|--|
| 総費用 | 2,657,000 円 | | | | | | | | | | |
| 出どころ | | | | | | | | | | | |
| 自費 | 貯金 | 100,000 | 円 | アルバイト | 円 | その他 | 円 | | | | |
| 援助 | 親 | 700,000 | 円 | 家族・親戚 | 円 | その他 | 円 | | | | |
| 奨学金 | JASSO | 円 | <input checked="" type="checkbox"/> | その他名称(トビタテ留学JAPAN) | 1,850,000 | 円 | | | | | |
| その他 | その他() 円 | | | | | | | | | | |

2-1. お金の管理方法

| | | | | | |
|-----|---|------|-----------|--------|--------|
| 渡航時 | | 現金 | 100,000 円 | その他() | 円 |
| 留学中 | ✓ | 海外送金 | ✓ | キャッシング | その他() |

2-2. 各費用の支払い方法

| | |
|-----------|----------------------|
| 大学に払った費用 | クレジットカード、銀行振り込み |
| 住居にかかった費用 | paypal, 現金(ATM引き下ろし) |
| その他 | |

2-3. 内訳

| 費目 | 外貨金額 | | 円貨金額 | |
|-----------------------------------|------|--|----------------|---|
| | 通貨単位 | | | |
| 渡航費(往復) | € | | 205,000 | 円 |
| JTBトータルサポートプログラム(海外旅行保険・危機管理サービス) | | | 200,000 | 円 |
| その他の保険料 | | | | 円 |
| 査証・在留許可証 | | | 10,000 | 円 |
| 住居 | | | 825,000 | 円 |
| 光熱費 | | | (家賃に含まれる) | 円 |
| 食費 | | | 320000(外食含まない) | 円 |
| 通学に要する交通費 | | | 42,000 | 円 |
| 教科書、教材費 | | | 20,000 | 円 |
| その他大学に支払った経費 | | | | 円 |
| その他 (旅行) | | | 840,000 | 円 |
| その他 (生活費用) | | | 200,000 | 円 |
| その他 () | | | | 円 |
| その他 () | | | | 円 |
| その他 () | | | | 円 |

3. 学業面

| 履修科目名 | 種類 ^{ex.正規、聴講} | 単位数 | 単位互換認定申請の有無 | | |
|---|------------------------|-----|-------------|---|---|
| | | | 有 | ✓ | 無 |
| 1 advanced user interface | 正規 | 6 | 有 | ✓ | 無 |
| 2 history of design | 正規 | 6 | 有 | ✓ | 無 |
| 3 product development design studio 1 | 正規 | 12 | ✓ | 有 | 無 |
| 4 Stadt Köln & KISD | 正規 | 6 | ✓ | 有 | 無 |
| 5 Scenes of Cooking and Dining | 正規 | 6 | ✓ | 有 | 無 |
| 6 Gute Stube | 正規 | 2 | 有 | ✓ | 無 |
| 7 Service Design | 正規 | 4 | 有 | ✓ | 無 |
| 8 Mentoring | 正規 | 4 | 有 | ✓ | 無 |
| 9 KISDEssentials | 正規 | 3 | 有 | ✓ | 無 |
| 10 TS Creative Technology & Motion Tracking @ MXL #04 | 正規 | 3 | 有 | ✓ | 無 |

3-1. 授業科目の選択、登録方法

polimiでは、大学の公式ホームページから個人ページにログインでき、そこで授業の詳細を確認できるカタログページと授業を実際に登録する提出ページがある。早いもの順で、遅くなると選択不可になることもあるので注意。交換留学生は、最低6単位最高で36単位取ることができ、必修の科目はない。学科専門科目、他学科開放の学科専門科目、共通選択科目、短期ワークショップがあり、私は学科専門科目1つに、2つの他学科との共同授業を選択した。

KISDは、7単位の必修科目があり、それ以外は長期、中期、短期のプロジェクト、セミナーコース、グループワーク(日本でいうところの委員会活動のようなもので、それも単位がつく)がある。好きなように組み合わせで30単位を目安に履修。また、KISDの学生全ては同じ学科の学生なので、どの授業も好きに選ぶことができる。各科目には人数制限があり、各科目人の優先順位が決められている。(例えば上級学年優先、同じ学年の場合名前のアルファベットが早い人が優先というように)そのため早い者勝ちはなく、ウェブ上で、今どれくらいの人が登録しようとしていて、自分の優先順位が何位かライブで見えるため、人数制限を超えていた場合は、その時点で他の科目に移ることができる。

3-2. 授業内容、方法に関して

polimiでは、どの授業でも人が40人以上で、人が多いため基本的に4人~6人のグループワークになる。メインのデザインエンジニアリング学科のstudioは、座学と実践の二つに分かれていて、午前は実践、午後はソフトウェアの使い方の座学、朝の10時から夜18時まで対面授業がしっかりある。(昼休憩は1時間くらい)対面授業が基本的で、学期始まりは事情があつて現地にまだ来れない人はオンラインで行い、ハイブリット形式。実践の授業では、最初の授業で4人のグループを学生間で作り、その後のワークや課題をそのグループで行う。テーブルランプのデザインをいろんな視点で学ぶ授業で、学期末には工房に何度も通いものづくりをした。bovisaキャンパスがメインキャンパスだが、もう一つの授業はreonaldoキャンパスで授業で、エンジニアの学生と一緒にUIを作る授業だった。

kisdでは、どの授業も最高で20人以下の少人数授業、先生と学生の距離が近い。先生と一緒に同じテーブルを囲んで座って授業が行われたり、生徒と先生が同じくらい話す。ある私が受けた授業では、先生と学生が1対3のものもあった。授業内容は座学が基本的になく、どれもプロジェクト形式で行われる。ケルン市で行ったサービスデザインの授業では、ケルン市の公園の中や工房で授業を行い、市民に検証実験などした。フードデザインの授業では食に関して調査しアウトプットするため、授業は学校の中の厨房で行い料理を作りながら学んでいった。

3-3. 語学力について

polimiは、授業は英語、先生やイタリアの学生の英語のイタリア訛りは強いことがあるため聞き取りづらいことも多々あった。最初の大学であるpolimiはやはり苦労したが、どの授業もチーム制ということもあって、わからないことはチームの人に確認をしていた。特にデザイン史の座学の授業は固有名詞などは難しい。Kisdも、英語であるが、市民への検証実験の際はドイツ語が話せなくて苦労した。ドイツの授業ではイタリアの時より聞き取れるようになってはいたが、ドイツ人学生の速い討論の合間に口を突っ込むことはやはり難しく、苦労した。イタリアの学生と比べてドイツの学生の方が話すスピードが全体的に速い。

全体を通して、英語を聞いて理解するスピード、会話の時の単語の出やすさが上がった。イタリア語とドイツ語に関しては、普段使う簡単な言葉は学んでいたが、生活や手続きなどで必要な時があり、その時はgoogle翻訳でなんとかあった。

3-4. 図書館など学内施設について

polimiでは、学生証を使い図書館に入り借りれるスタイル、千葉大と同じ。Bovisalに小さい図書館、reonaldoに大きめの図書館がある。どの建物にも自主ワークスペースがあり、そのスタイルも様々。学習室もあれば、廊下の壁脇に置かれた2人専用ボックス席だったり、床に置かれた10人掛けくらいの大きいクッションもある。デザイン校舎そのものが倉庫になっていて、大きい吹き抜けの構造の中にこのような自主ワークスペースがあるため、とてもデザインの校舎らしく、アイデアが湧いて来そうな空間になっている。

Kisdは、中庭がある一つの校舎でできており、授業がないときは、中庭で勉強したり、おしゃべりをしたりする。カフェスタンドや卓球テーブルがあり、生徒や先生たちの新しい交流を生む場所になっている。wood lab/ metal lab /seramic lab food lab /fashion lab/ mxl labなど従来の工房の概念にとらわれず様々なものづくりに挑戦できるlabが校舎の中にあり、常駐の先生が各所いるため、いつでも好きな時に行って使うことができ、学生と工房の距離が近い。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

イタリアもドイツも探しにくい。3ヶ月余裕持って探し始めた方がよい。flat shareが基本。キッチン、洗面所、トイレ、お風呂は共有で、自分の居室がある。家具付きの物件も多い。

イタリア

share room300~450€、flat share500€~700€、中心部に近いと高すぎる。学校の周り、ミラノの周辺がおすすめ、治安が悪いと言われているエリアもあるから注意(ミラノの北の周辺)

housing anywhere/uniplaces/spotahome/immobiliare(イタリアのみ)/idealista(イタリアのみ)の5つのウェブサイトを使い合計30以上の大家さんに問い合わせ返信が帰ってきたのは、3分の1程度

ドイツ

flat shareでも300~700€まで様々、ドイツでは「WG-Gesucht」がメインのウェブサイトだが、掲載されている家は仲介サイトが実際に内見して保証しているものではなく、大家さんと借りたい人をマッチングさせるだけのサービスのため、詐欺が本当に多いから注意。ドイツでは敷金払う前に内見することが法律上義務付けられるため、「敷金を先に振り込んでほしい」などの要求がある場合は、詐欺の可能性大。housing anywhereもドイツで使えた。

4-2. 食生活について

外食よりも自炊の方が断然安い。どちらの国も野菜・果物は日本より安い

イタリア

外食は10€~20€で週2回くらい、昼ごはんは学校の近くのキッチンカー・カフェパン屋・学食(reonaldo campusの方はすごく並んでいて時間かかる)、スーパーは歩いて5分のところに2つあって、1週間で40€くらい消費していた。

イタリアのパスタ文化、それぞれの地域で形や種類が全く違う。それぞれの地域に郷土料理があって、パスタとピザだけではない。海鮮を豊富に使う沿岸地域や、馬肉を食べるvelona地域、骨つきステーキを食べるFirenzeなど。aperitivoという食前酒の文化がとても濃く根付いていて私もとても好きな文化。spiritsと生ハムやチーズオリーブを乗せたプレートのくみ合わせがよく食べられる。イタリア人は食事はかなり時間をかけて、友人や家族とのおしゃべりを楽しむから、レストランはいつでも賑やかな雰囲気。

ドイツ

外食は15€~25€くらい、たまに外食で、ほぼ自炊していた。昼ごはんはパン屋さん、レストランのテイクアウトメニュー、学食に行っていた(2.5€くらいですごく安い)、戦争の理由でか、レストランもスーパーも値段が高騰気味。

じゃがいもの料理方法が多く、パンの種類も豊富で美味しい。レストランで食べるドイツ料理は基本的に、ポテト、肉、ビールの組み合わせ、毎度かなり豪快な印象。トルコ人が多く住んでいるためか、ケバブ店が日本のコンビニのように多くあり、量が多くて比較的安いためたまに食べていた。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

イタリアのsimは大手の会社と格安simの会社がある。私はwindtre(大手)を2ヶ月使った後に、友達に格安sim紹介されて、解約しIliadという会社のものに移った。windtreは20G/20€、クレジットの引き落としもできるが、解約が難しいと聞いたため、店舗に行ってチャージを行っていた。Iliadは80G/8€、ウェブサイトでサブスク設定ができる。ネットのつながりやすさは両者同じであった。Iliad以外にもイタリアは格安simの会社があるみたいで基本的にプランは激安。家の回線は良い。

ドイツはsimカードは高い。大手かスーパーがやっているsimのどちらか、格安simのような安くて、何十ギガが使えるものは見つからなかった。スーパーIldlのもので12G/17€。家のWi-Fiはかなり悪かった。

4-4. 服装について

冬服を日本から段ボールで送ってもらったが、届かず、日本に戻ってしまったため、冬服はイタリアで買い揃えた。イタリアではユニクロやZARA、H&Mなどの世界チェーンブランドでよく服を買っていた。ブランド品が多く、なかなか安い店は見つからない。また、セカンドハンドショップがよくあり、そこではブランドのものやおしゃれな服が安く売られていた。ドイツはショッピングストリートに割と若者向けのリーズナブルな店がたくさんあって、そこで春夏の服を買っていた。

4-5. 健康管理について

アルコール消毒を持ち歩くようにしていた。イタリアドイツ両方で、アルコール消毒はよく置いてあったが、マスクに関しては規制が厳しくない。冬の頃は、室内、交通機関はマスクだったが、冬を過ぎてからは交通機関のみ必須でレストランやスーパーでは付ける義務がなくなった。日本との違いは、規則でマスクが必須ではなくなった瞬間ほとんどの人がつけなくなるということ。マスクやグリーンパスなど、規制に関して反対するものがデモを起こすことはよくあった。

私自身イタリアにいる1月にコロナにかかってしまい、自宅で休んでいた時期があった。キットで行う抗原検査は5€でドラッグストアに売っており、薬局でも診断書付きの15€の抗原検査ができた。両方とも検査が陽性になって、薬局のスタッフから、10日間の自宅待機を要請された。薬局で風邪薬を買って飲んでみた。ドイツでは、私がいた時期、全国各地の薬局や仮施設で無料で抗原検査ができる制度があったため、もっと気軽に検査することができた。kisdのある授業では、授業前に検査必須で毎週2回検査を行っていたこともあった。

4-6. 保険、危機管理サービスの利用について

特に利用していない。

4-7. 課外活動について

Gute stubeという学校内のコーヒースタンドで活動していた。週に一度4時間くらいのシフトがあり、その中で、エスプレッソ式のコーヒー作り方を学びつつ、牛乳やスナックを通して、ドイツ人のビーガンやベジタリアン多さやそのルールについて身をもって体験した。また、同じシフトで活動している学生とも交流する時間になり、どんな授業を取っていてどんなことをやっているのかについてお互い話す時間にもなった。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

Facebookで繋がった友達と旅行に行ったりしていた。料理パーティーだったり、ハロウィンパーティーなどに参加することで、友達つながりで新しい友達に出会うことがよくあった。そこで、日本人でMBAを勉強している人に会ったり、エンジニアを勉強する人に会ったり、いろんな人に会えて、交流することもあった。

4-9. 日本から持参してよかったもの

- ・ダイソーで買っていった簡易炊飯器(電子レンジで15分加熱すればお米が炊ける)
- ・だし、コンソメ顆粒(簡単な料理に少し入れれば美味しくなる)
- ・折り紙、日本のお菓子などのお土産(外国人に折り紙を教えて日本文化を交流する機会になった)
- ・VISAデビットカード(VISA対応のATMであれば現金がおろせた)
- ・食品保存用の小さい袋
- ・風邪薬(コロナ発症時に役に立った)

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

- ・日本の水出しパックのお茶(恋しくなると思い持っていたが、海外もたくさんお茶があってそれで十分だった)
- ・大量の筆記用具(海外の文房具は使いにくいと聞いてたくさん持っていたが、1・2本で十分)
- ・イラスト・スケッチ用の画材道具(授業で使うと思っていたが使わなかった)
- ・スーツ(スーツ着る機会なかった、授業のプレゼンなどでフォーマルな服装を着る機会があってもスーツ着る機会がない)
- ・イタリア語勉強の本(言語習得アプリのduolingoを使い始めて、本を全く使わなかった)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

ドイツの公園文化には驚いた。特にドイツの中でも、ケルン市は特に、街の中で赤の他人に話しかけることを全く躊躇わない。私が公園で座っていると、仲の良い友達だと思って見ていた二人がただ道を案内をしていた赤の他人だったということがあった。また、小さい子供から高齢の方、学生や社会人もどんな世代の人も公園でゆったり過ごす習慣がある。公園で大学の授業をしていると、自主的に興味を示す人や話しかけてくる人もいる。

イタリア人は、食事の時間はとても長く、友達や家族とおしゃべりをゆっくり楽しむ。

野菜、肉、チーズは量り売りコーナーが絶対あった、友達と遊びに行く時は、相手との共通の友達ではなくても、自分の友達であれば問題なく連れて来るとい習慣があって、日本と違うなと感じた。気まずさとか全くなく、こういう習慣があるからいつも新しい人に出会う社交の場になっていた。例えば最初は2人で行く予定のレストランもいつの間にか8人になってることがあった。

ドイツペットボトルや缶の飲み物は買うときに毎回25セントのボトル代を追加で払い、飲み終わったらボトルをスーパーに返すと25セントを戻される仕組みだった。ボトル4こ集めると1ユーロになるという結構ボトルに高値がつくため、ボトルが街に落ちているのを見ると拾う人がたくさんいる。環境意識がたかい。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

イタリア・ドイツには、いろんな街があり、それぞれの街の建物の雰囲気や食文化も全く違う。週末やテスト終わりの長い休暇で大きな都市や、その間にある小さな町を見ることで、イタリア・ドイツの文化を肌で感じた。

ドイツには6.7月に9ユーロキャンペーンがあり、一ヶ月9ユーロのチケットを買えば快速以外の電車とトラムがドイツ全土で乗り放題になる。そのチケットを使い、近くの街に遊びに行っていた。

フィレンツェ2021年10月(3日)4万

ローマ2021年12月(4日)4.5万円

バーリ2021年12月(3日)3.5万円

ベネチア2021年11月(3日)4万円

ナポリ2022年1月(3日)3.5万円

フランクフルト2022年6月(2日)2万円

デュッセルドルフ2022年7月(2日)2万円

<千葉大学からの旅行許可を得るまで、以下の手順を踏まえる必要あり>

国内旅行の場合: 事前に指導教員の先生に旅行について相談し、了承を得る。

国外旅行の場合: 指導教員の先生および所属学部から許可を得る。

その他 *気分転換やストレス発散法など。

一日中家にこもっていた時は、ルームメイトの子と一緒に散歩しに行っていた。1時間くらい散歩すると途中で面白い建築とか新しい発見がたくさんあり、気分転換になっていた。ミラノduomo付近でショッピングしたり、ギャラリーや美術館が多くあるため週末や学校終わりに行っていた。ミラノが位置するロンバルディア州では、40ユーロで買えるミュージアムカードがあり、一年間有効で、たくさんの美術館や博物館、遺跡にチケットを買わずに入れる。半年だけの滞在だったが、私の場合、合計100ユーロくらいの使うはずだったところ40ユーロで済んだのがとてもお得でおすすめ。
ドイツは公園や川があって、自然がとても多いので、サンドイッチを自分で作って、公園に持って行って食べることもあった。南の方に森が綺麗な、ブラックフォレストやアイフェル地方があって、ハイキングに行っていた。

5. その他

5-1. 留学先大学について

どちらの大学も工房がともしっかり整備されていて、常駐の先生にすぐ相談できるから、使いたい時にすぐ使えた。留学生が多い。取りたい授業は全て英語で行われていたし、学生はみんな英語が話せるため、みんな同じ目線に立って意見を言い合うことができた。

polimi

polimiは規模が大きくて自分で積極的に話しかけに行ったり、社交の場に行かないと友達が作りづらい。学生もみんな個人個人でキビキビ行動する感じで、最初は、孤独を感じることもあった。友達になるきっかけは授業のグループの人、ルームメイトとかが多い。キャンパスが広いかつ、授業が終わるとみんなスタスタ帰ってしまうため、同じ授業の友達は授業以外にキャンパスで見る機会があまりない。二つのキャンパスで授業を受けていたため、デザインの学生だけでなく、建築やエンジニアの学生と関わる機会があって、どんなことをやっているのか交流するのがとてもためになった。polimiは留学生の半分以上を占めるほど中国人が多く、中国人のみのワークグループに入ることもあり、中国語を磨く機会にもなった。

kisd

統合デザイン学科のため、さまざまな領域のデザインを自由に選択することができる。日本では聞いたことのないユニークなデザインも経験できる。食文化のデザイン、編み物デザイン、テキスタイルデザイン、ジェンダーレスに関するデザイン、サービスデザインなど。自分がその授業を取ってなくても、全ての授業の最終発表は全校生徒が聞けるよう大講堂で行うため、いろんなデザインがオープンに聞けて学び合えるのもよかった。私がとった授業の中には私以外みんなドイツ人学生だった授業があり、基本的に英語で討論するため問題はなかったが、討論の熱が上がった時にドイツ語でどうしても話始めてしまう時があって、その時は疎外感を感じることもあった。討論の仕方が日本の大学と違って、スピードが速く、他の人の話に被り気味で話し始める感じだったため、なかなか口が挟めないことも最初があった。そのスタイルなりに、イラストを準備して持っていったり、初めに話させてもらったりした。

polimiのような大規模な大学に比べ、もっとアットホームな感じがした。理由としては、①プロジェクト単位でワークを進めるから小グループに別れることなくクラス全員と話せて友達になれるから。②比較的小さい校舎の中に中庭・カフェスタンドのような溜まり場があるためクラスで会った友達によく会えたり、友達の紹介で新しい交流が生まれやすいから。③交換留学生が全体で2,30人しかいないため、留学担当の先生がよく面倒見てくれるから。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

新しい国で一からコミュニティを作るのは大変、何か病気になったり、手続きとかで困ったときにサポートセンター使う手もあるけど、一番は近くにいる友達だから、頼れる友達を作っておくといい。そのためには、新しい文化や食べもの、習慣などに自分から積極的に体験しに行くことが大事。留学生は留学生と一緒に行動しがちになるが、現地の学生の中に入って馴染んだ時にしか見えない現地の人の習慣だったり、考え方があって、ぜひ現地の人との交流も積極的にしてほしい。

色々な場所を観光してまわる中で、何に意識を向けるか自分の中で一つ決めておくと、観光をただの観光で終わらすのではなく、違う視点で見えてくると思う。

5-3. 留学を終えて

「自分という役職」、自分ってどういう人でどんな将来や生活を送りたいかについて心から言える人になるって大事だと思った。人には各々学生や社会人という役職はあっても、まずは自分という一人の人間なんだという前提を忘れてはいけないとドイツ人の生活を見ていて感じた。ドイツでの留学期間中、夕方16時になると老若男女問わず自然公園でゆったり自分の時間や家族との時間を楽しんでいる様子を見たり、高校を卒業すると大学にすぐに行かず1年間ワーキングホリデーや世界旅行をして本当にしたい生活を探りにいったという話をたくさん聞いた。学生だから〇〇とか社会人だから〇〇しないといけないという理由なんてどんな生活をしたいかとは関係ないんだと身をもって感じた。今まで、日本にいたら当たり前だと思って疑いもしなかったことが、海外に出て、いろんな人に出会ったから、おかしいと気づけたし、何気ないことでも改めて考えさせられるきっかけになった。もっといろんな生き方をしている人やいろんな生活文化、視点があることを知って、自分の考え方の狭さを思い知らされた。そのような視野が広がったという感覚は日本に帰ってきた時また戻ってしまわないように、海外の生活を通して鍛えた、常に新しいことを吸収しようと行動し続けることという意識を保ち続けたいと思う。

考えたことすらなかった海外での仕事は、今までならずごいなとだけ思って自分とは遠い存在だったが、今なら自分の中の一選択肢として考えられるととても近い存在になった。いつかどこかでまた、ヨーロッパに戻って生活がしたいと思う。